

新年のご挨拶

太田市医師会長 小島 章

新年あけましておめでとうございます。会員の皆様方におかれましてはお健やかに新春をお迎えのこととお慶び申し上げます。本年が平穏な年であることを衷心より祈念しております。

今年は、まさに国の内外において課題山積であります。国益とは何かを真剣に考え、まず日本の国土と国民の生命を守ることが大切です。野田佳彦総理が覚悟と器量を持って日本を立ち直らせるか？被災地の復興を大きく加速させられるか？原発事故の一日も早い収束を図ることができるか？第179回国会の所信表明に述べたとおり、明日に向かって希望の種を撒き、希望の芽を大きく育てられるのか？正念場であります。

ともかく、我々は医療人の使命と良心により、現在の日本の社会保障の根底をなす国民皆保険制度を守り抜くことに全力を尽くさなくてはと存じます。今年4月の医療と介護の診療報酬の改定も、財源不足で大変気がかりです。医療と介護の現場を壊す改定は願い下げしたいものです。受診時定額負担や、70歳から74歳の1割から2割に倍増する患者負担増は受診抑制になり、国民の不幸の種になり、断固反対であります。今後は地元住民の方々と協力して、患者負担増の「見送り」から「負担減」を計りたいものです。

さて、太田市では去年3月北関東道が全線開通し、太平洋や東京方面に行くのに大変便利になりました。また、総合太田病院（太田記念病院予定）が新築移転し、今年6月開院予定であります。地域救命救急センターに指定され、太田市で救急を担う他の5病院とも連携し、更に病診連携も進み、市内の救急医療が充実することを切に願っております。

太田市医師会は、お陰様で昨年10月22日太田看護専門学校創立40周年を迎え、記念誌を発刊し、記念式典を開催することができました。大変有り難うございました。准看護師を看護師に養成する、いわゆる進学課程にて、太田市では准看護学校が存在せず、これからの学校を公益事業として継続することに関する懸念が、杞憂であればと願っております。

新公益法人化への対応としましては、委員会や理事会において、非営利の一般法人化を目指すことを決め、春の総会に向け鋭意準備しております。また、昨年5月第86回の定期総会において、懸案でありました新医師会館を、元の市民会館の跡地に太田市保健センター、平日夜間急病診療所等と合築することを議決し、太田市や市民の代表の方々と協議して、昨年12月太田市議会において、設計のプロポーザルのための予算が承認され、今年3月の議会で設計費を計上していただき、25年度中の完成を目指しております。

今後とも我々は、地域医療の充実に努め、住民の方々の生命と健康を守る使命を全うすべく、精励する所存であります。今後ともご指導ご鞭撻をよろしくお願い申し上げます。

結びになりますが、群馬県医師会、太田市医師会、関係各位のご活躍、ご健勝、ご多幸を心より祈念申し上げ年頭の挨拶とさせていただきます。

平成24年1月